

別子銅山史の留意点に対する思考

2024. 11. 6 坪井利一郎

日本を代表する鉱山の別子銅山に関する本が数多く出版されているが、多くの本は前に出版された本を無批判に参考文献として使っているので間違いが継承されている。記述する対象が大きいので、にわか勉強をして現地を見て歩いても十分には理解できない。かつて3日間の取材で20ページの紹介文が書かれたときに、校正を依頼されて読むと訂正箇所が128ヶ所もあった。郷土本の「愛媛県謎解き散歩」を広げてみると、2ページで8箇所の訂正が必要である。1頁当たり6.4箇所、4.0箇所という状況であった。

注意して読まなければならないのは分かるが、間違っているのはどうして分かるのかと質問される。私の書斎の1002点の文献から判断していると答えている。ここ40年間に出版された出版物は、ほぼ目を通して。住友史料館から出ているのは、ほぼ間違いがない。古いものより新しいものの方がより正しいが、孫引きは古いものである。

私たちは出版されたものは、まずは正しいものだとは鵜呑みして読んでいる。「ふだん何を確かだと思っているか、何を信じてよいものかと考えているか」と聞かれると、答えられない。一つひとつこだわって生活できない。呼吸も意識しないと分からない。

確かさを疑うときも、「今日のビールは特売」と書かれているその事実を疑ったりはしない。体重計に乗って示された数値は嫌だが疑わない。私たちは様々なことに疑いを持って、自分が直接感知していることは疑わない。日常生活の中での知覚を基本的には確かなものとみなして、信じてよいものとしている。実際には、見間違い、聞き間違いはよくしているが、知覚は信じている。

デカルトは、何かを信じてよいといえるためには、それが不可謬である必要があると考えた。この考えだと知覚だけでなく、記憶も信じる事が出来なくなる。この基準では、信じてよいものとそうでないものを区別するという課題に対しては何の回答も与えてくれない。

知覚や記憶がときに間違い、不正確であったとしても、それだけで知覚や記憶に基づいて何かを信じてはいけないということにはならない。レシート金額と記憶が食い違っている場合は、自分の知覚と記憶をそのまま信じることはできないが、そのような疑うべき理由がない場合は、私たちは知覚や記憶を信頼している。この考え方は、不可謬主義に対して可謬主義という。

ソファの上に猫がいるのが見えていれば、私は「ソファの上に猫がいる」を、知覚や記憶以外の根拠が必要だと思わないので信じる。他人が「ソファの上に猫がいる」といったら、信じるだろうか。他人の証言は、それだけで信じるための証拠となりうるだろうか。証言者の発言が事実と一致していることを日常的に数多く経験(知覚・記憶)しているので、この一致が今後も続くと考えて信じる。

他人の言葉を信じるには、別の根拠が必要なのだろうか。旅先で道に迷った時に初対面の人に道を尋ねて、その人のいうことを信じて行動する。または、教えられたルートが本当であるかどうかを確かめるためには、別の人に尋ねたり、本屋で地図を閲覧したり、スマートフォンの地図を開いたりする。他人の証言を信じるために別の証言が必要とされることにな

る。幼児の知識を考えた場合により明確になる。最初に獲得する知識は近親者によって与えられる。その証言以外の根拠が必要だと考えるのは無理である。証言を鵜呑みにして信じざるをえない。

私たちの日常的な知識は不可謬的に他人の証言に依存しているということである。私たちは、他人から聞いた話や本に書かれたことを通じて、それまでに知らなかった様々な情報を得る。情報が正しいかどうか他人に依存している。別子銅山について書かれている内容を受け入れる読み方である。しかし、他人の証言を信じてよいかどうかを、証言以外の根拠を基に判断すべきだと考えることも可能である。

証言以外にはどのような根拠が必要なのだろうか。その人の証言が誠実になされているかどうか。しかし、証言が誠実になされていても、簡単に信じていけない場合がある。証言者が知る能力を持たなかったり、知りうる立場になかった場合である。聞き手や読み手は信じるかどうかを判断するには、証言者が知りうる立場にいたことを示す証拠を探すことである。能力テストとして、その事柄に対する専門的な質問することである。別子銅山に関していうと、意外と現地の位置関係や地名の意味を知らないでいる。その一番代表的なものは、銅山峰の理解である。「高橋」の読みも有効である。「衛」と「衛」の使い分けも意外とできていない。証言者の発言意図を解釈してみることである。別子銅山を正しく伝える意思があるかどうか。ライターとして依頼されて収入源として書いている場合がある。名誉のテーマとしている場合もある。

別子銅山に関する記述の変遷を把握して、資料・データを併用して「自分で考えて」正すしかない。